

# 愛媛果研ニュース

No.42 令和6年9月



令和6年は1月1日に能登半島地震、4月17日に豊後水道地震が発生しました。豊後水道地震では愛南町で震度6弱を観測し、多くの皆様が南海トラフ巨大地震の事が脳裏をかすめたのではないかと思います。今後30年で70~80%の確率で発生するとされている有事に対し、周辺環境を熟知するとともに、事前の備えをすることが非常に重要となっています。このことは、10年先、20年先を見据えた果樹経営においても同様であり、園地整備・柱となる品目の更新時期・新技術の導入など、そのタイミングを見極めるには多くの情報を得ることが必要と思っています。また、近年は過去に経験したことがないような高温や降雨により高品質果実生産が難しくなる中、果樹研究センターではその対策技術について様々な試験に取り組んでいるところです。果樹栽培における気候変動への適応策は、短期的なものや将来を見据えた中・長期的なものがあることから、産地の実態を踏まえた上で、リスク軽減に繋がる栽培技術の確立や耐性品種の開発を目指したいと考えています。

さて、今回の果研ニュース No. 42 は、

- ① 愛媛県におけるシールディング・マルチ栽培の現地実証、
- ② アブシジン酸液剤による「ピオーネ」の着色向上技術、
- ③ ドローンによるカンキツ防除の実用化に向けた取組み、について取り上げました。

農研機構が開発した降水量が多い年や糖度が上がりにくい園地において品質向上効果が得られるシールディング・マルチ栽培、高温下におけるブドウの着色不良を軽減するための技術、ドローン防除における実用化に向けた研究成果をご紹介しますので、一読していただければ幸いです。

果樹研究センター みかん研究所長 藤原 文孝